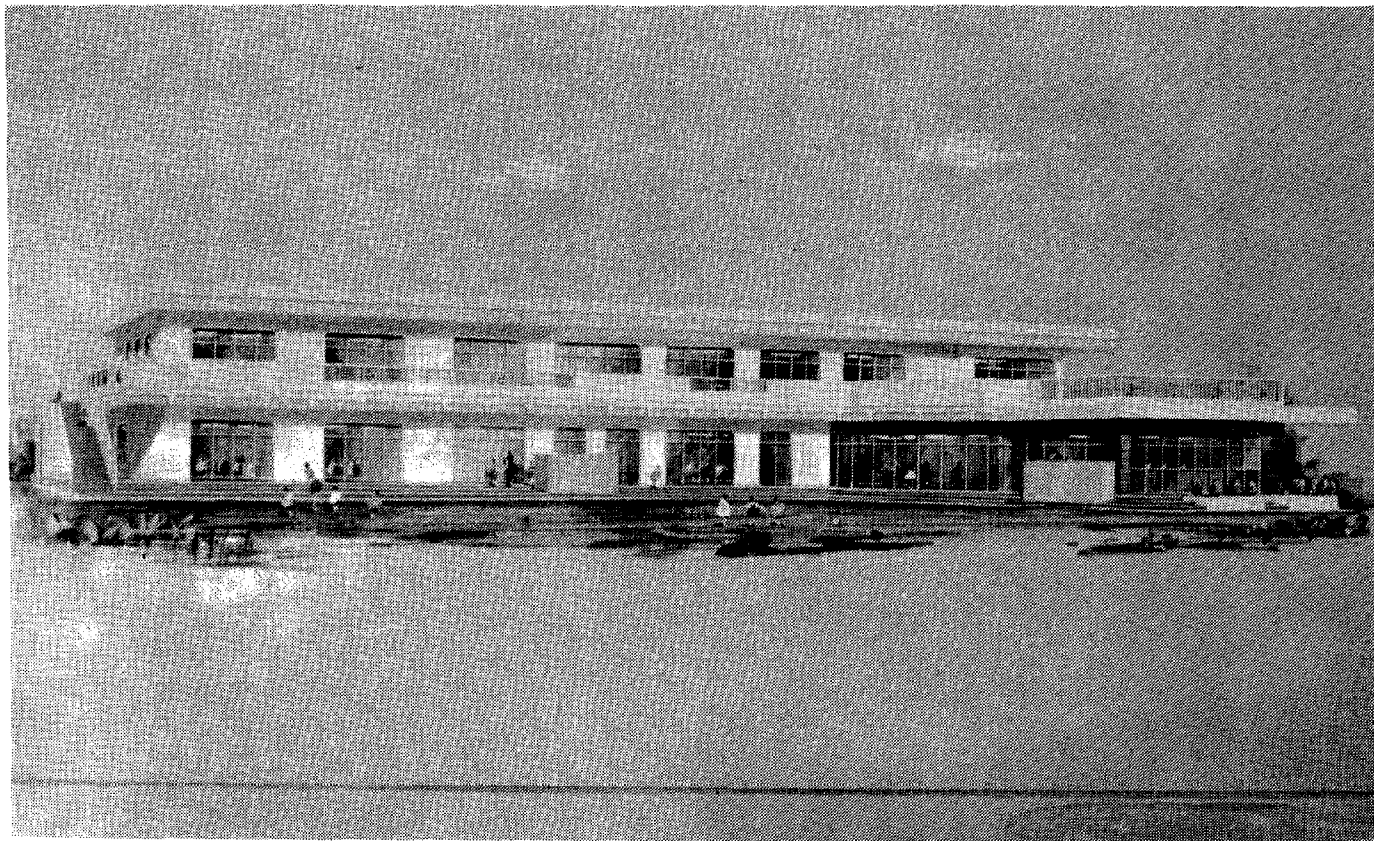


広報

こゝろ 79 3

臨時号

発行・幸田町役場 愛知県額田郡幸田町大字菱池字黒方11番地
編集・企画課 ☎2-1111 ☎2458 印刷・角間印刷



▲ 鷺田保育園(仮称)完成予想図

昭和54年度予算成立

総額約33億2千万円

最重点 教育費約10億 (新設小学校建設など)
民生費約6億 (鷺田保育園(仮称)など)

昭和54年度予算

新設小学校建設

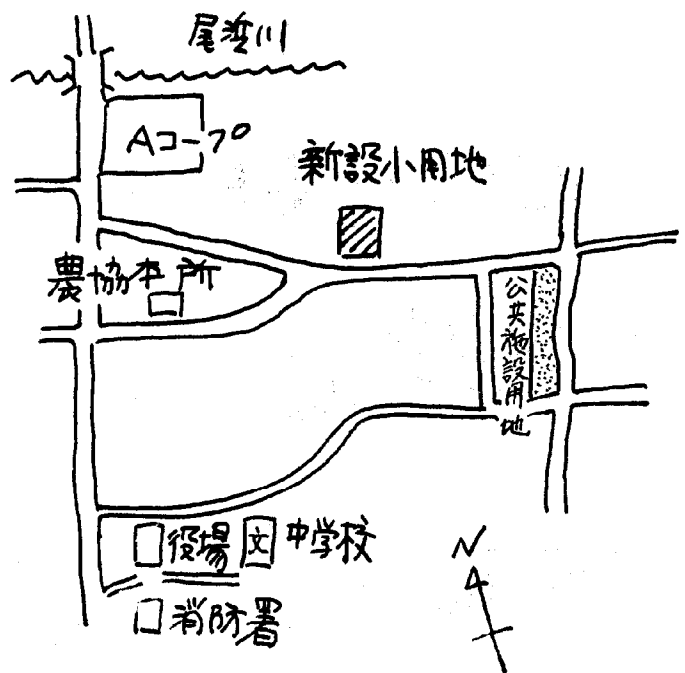
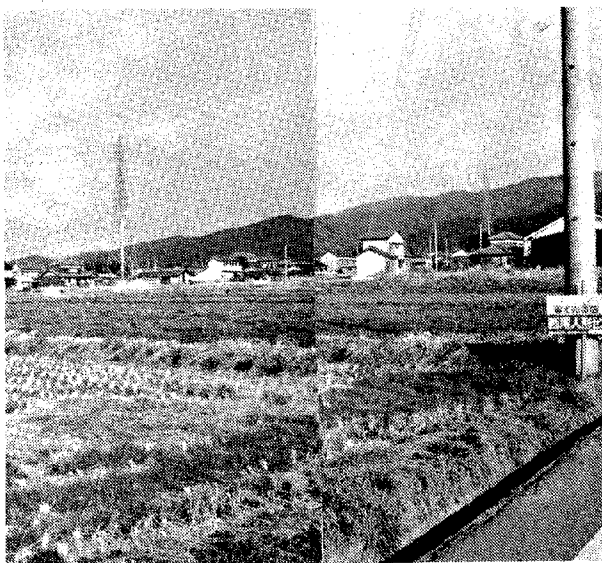
新建設用地

菱池字奉行
横落字北門
地内

新設小学校用地の問題につきましては、各方面から貴重な意見をいただき、また、関係者には心配をおかけしていただきましたが、三月定例議会におきまして、新設予定地が議決され、新設小学校建設問題は、昭和五十四年度校舎建設、昭和五十五年開校の運びとなりました。

新予定地は、文部省の示す教育施設整備基準にも合致し、形状、規模、面積などにおきましても将来の学級増に十分対応できるものです。

▼新設小学校建設
予定地



児童数推計表

学校 年度	幸田小学校			新設小学校 (岩堀・横落区で編成)		荻谷小学校		
	現状推移		新設小開校の場合 (岩堀区除く)			現状推移		新設小開校の場合 (横落区除く)
	生徒数	普 特	生徒数	普 特	生徒数	普	生徒数	普 特
53	778	21+1					500	13+1
54	843	22+1					519	13+1
55	889	23+1	624	17+1	374	12	527	14+1
56	980	25+1	704	19+1	401	12	536	15+1
57	1034	27+1	749	20+1	422	12	547	16+1
58	1097	28+1	804	21+1	444	12	540	15+1
59	1188	30+1	889	23+1	460	12	542	15+1
60	1257	32+1	958	24+1	459	12	544	15+1

日本電装の団地建設などの社会事情の変化、発展により幸田小学校の児童数増加は著しく、現有施設では教室不足を生じ、適正かつ正常な環境での学校教育が不可能な状況になりつつあり、早急に新設小学校の建設が必要とされておりましたが、昭和五十四年三月定例議会におきまして、新設小学校建設の予算が議決され、五十四年度校舍建設、五十五年開校に向けて動き出しました。

現在の幸田小学校の児童数増加の推移を見ますと別表（児童数推計表）のとおり昭和五十三年度二十二クラスであるものが、昭和六〇年には人口の社会増を考慮しますと一〇クラス以上増加の三十三クラスになります。

一方、荻谷小学校におきましても昭和五十三年度一四クラスであるものが、昭和五十七年度には一七クラスと三クラスの増加が見込まれるため幸田小、荻谷小の適正な規模による学校教育の運営のため新設小学校の学区を岩堀・横落両区と決定し、建設を進めます。

新設小学校用地の位置および選定につきましては、両学区の児童分布を考慮し、新学区の中心的な位置を選ぶことが望ましいという観点から地元関係者の方々の格段のご尽力により農協本所の東側、菱池字奉行、横落字北門地内にまたがる二一、六二五㎡の用地が確保され、新設小学校用地となりました。

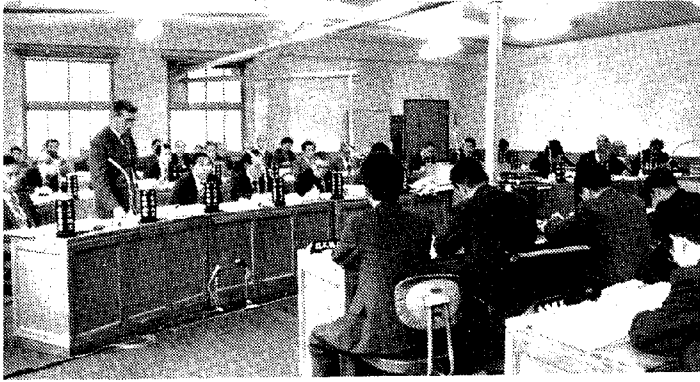
新設小学校の規模は、普通教室（一二クラス）、特別教室（六クラス）の鉄筋コンクリート三階建、延べ面積約三、一〇〇㎡、体育館（鉄骨平屋建、面積約九七〇㎡）をもち、配置につきましては、学校規模、校地面積、形状などを考慮、また将来の学級規模を勘案した二次、三次の配置計画も含めて設定いたします。

昭和五十五年度で、六コース二十五m、低学年用四mプールの建設（水面面積四〇〇㎡）、管理棟の建設を計画し、運動場の規模は文部省の示す基準面積を上まわり、周辺に植樹などを行い、環境整備も併せて一体的に計画し、よい環境が健やかでたくましく、情操豊かな人づくりの育成に役立つようと考えています。

新設小学校が、昭和五十五年四月に開校されることにより教育施設の充実と小学校間の均衡が図られ、適正規模による望ましい学校教育が実践されることを期待します。

町民の皆様には、一層のご理解とご協力を賜わり、新しい町づくりを念願しております。





第一回定例議会

果 結

昭和五十四年三月定例議会が九日から二〇日までの十二日間にわたり開催されました。

提出された二十八議案につきましては、慎重審議の結果、いずれも原案通り可決されました。

具体的内容につきましては、議会だよりに掲載されますが、可決された議案名は次のとおりです。

上程議案

- 幸田町議会の議員の報酬・費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正(賛成多数)
- 幸田町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正(賛成多数)

- 幸田町特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部改正(賛成多数)
- 幸田町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正(全員一致)
- 幸田町消防団条例の一部改正(全員一致)
- 幸田町指定金融機関の指定(全員一致)
- 幸田町役場庁舎建設基金の設置及び管理に関する条例の制定(全員一致)

- 昭和五十四年度における固定資産税及び都市計画税に係る第一期の納期の特例に関する条例の制定(全員一致)
- 昭和五十四年度における軽自動車税に係る納期の特例に関する条例の制定(全員一致)
- 幸田町児童館の設置および管理に関する条例の一部改正(全員一致)
- 幸田町立保育所設置に関する条例の一部改正(全員一致)
- 蒲都市幸田町衛生組合規約の一部改正(全員一致)
- 幸田町農業共済損害評価委員会員の選任(全員一致)
- 昭和五十四年度農業共済事務費の賦課単価(全員一致)
- 幸田町農業共済条例の一部改正(全員一致)
- 用悪水路の一部公用廃止及び処分(全員一致)
- 土地の取得(全員一致)
- 昭和五十三年度幸田町一般会計補正予算(第六号)(全員一致)
- 昭和五十三年度幸田町国民健康保険特別会計補正予算(第三号)(全員一致)
- 昭和五十三年度幸田町農業共済特別会計補正予算(第二号)(全員一致)

- 昭和五十三年度幸田町水道事業会計補正予算(第四号)(全員一致)
- 昭和五十三年度幸田町土地取得特別会計補正予算(第一号)(全員一致)
- 昭和五十四年度幸田町一般会計予算(賛成多数)
- 昭和五十四年度幸田町土地取得特別会計予算(全員一致)
- 昭和五十四年度幸田町国民健康保険特別会計予算(賛成多数)
- 昭和五十四年度幸田町農業共済特別会計予算(全員一致)
- 昭和五十四年度幸田町水道事業会計予算(全員一致)
- 先行取得用地の用途変更(全員一致)



昭和54年度幸田町予算概要

(千円)

会 計 別		予 算 額
一 般 会 計		3,321,517
特 別 会 計	国民健康保険特別会計	515,048
	農業共済特別会計	82,803
	土地取得特別会計	175,920
水 道 事 業 会 計		413,806
合 計		4,509,094

歳 入

(千円)

款 別	予 算 額	構成比
町 税	1,056,616	31.8%
地 方 譲 与 税	44,000	1.3
娯楽施設利用税交付金	28,800	0.9
自動車取得税交付金	56,000	1.7
地 方 交 付 税	650,000	19.6
交通安全対策特別交付金	3,500	0.1
分担金及び負担金	95,220	2.9
使用料及び手数料	26,203	0.8
国庫支出金	334,272	10.0
県 支 出 金	319,549	9.6
財 産 収 入	2,650	0.1
寄 付 金	23,545	0.7
繰 入 金	251,266	7.6
繰 越 金	30,000	0.9
諸 収 入	226,896	6.8
町 債	173,000	5.2
歳 入 合 計	3,321,517	100.0

歳 出

(千円)

款 別	予 算 額	構成比
議 会 費	55,452	1.7%
総 務 費	258,242	7.8
民 生 費	613,831	18.5
衛 生 費	159,950	4.8
労 働 費	14,313	0.4
農林水産業費	334,013	10.0
商 工 費	32,906	1.0
土 木 費	416,064	12.5
消 防 費	106,132	3.2
教 育 費	1,021,713	30.8
災害復旧費	3	0.0
公 債 費	236,798	7.1
諸 支 出 金	52,100	1.6
予 備 費	20,000	0.6
歳 出 合 計	3,321,517	100.0

昭和54年度予算

鷺田保育園(仮称)建設

昭和54年3月定例議会で議決



モデル施設や現職保育母の意見を十分に入れた計画

本町におけるここ数年の幼児人口の増加は著しく、特に菱池地区においては、日本電装の団地などの建設により住民人口が増加し、当然に幼児人口も年間六〇人増え、菱池地区を園域に持つ菱池保育園では、現在一六〇名の定員のところを一九〇名余りの園児を保育しています。こうした中で、昭和五十四年度には、更に園児数が一九五名に増え、新しい保育園の建設が急務となり、昭和五十五年開園

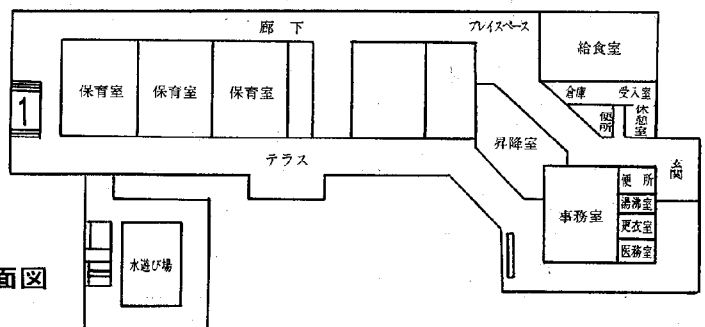
園を目的に、隣接の市町村のモデル施設をはじめ、現場で実際に保育を担当する保育職員の見などを網らした新設鷺田保育園(仮称)の基本計画を盛り込んだ昭和五十四年度当初予算案が、三月定例議会で議決され、昭和五十五年開園の運びとなりました。鷺田保育園(仮称)の建設により町立保育園も九施設となり収容人員も一、二七〇名に増員され、幼児教育への父兄の期待にこたえた保育が展開されるものと確信されます。

施設の概要

定員 150人
敷地面積 5073㎡
建物の構造 鉄筋コンクリート
建物の面積 2階建 延1.034㎡

室数
保育室 5
遊戯室 1
乳児室 1
事務室 1
調理室 1
その他

1F 平面図



2F 平面図

